

## ■鎌倉広町緑地実施設計(案)市民説明会での意見とその対応方針【平成24年3月9日腰越行政センターにおいて】

	項目	市民説明会での意見	市民説明会での説明(⇒:対応方針)
1	園路	園路の階段は段数が非常に多いと思う。現在青空保育で2歳~6歳児30名を週2~4回程度、10年間に渡り広町で遊ばせてきた。一度も事故が無かったのは階段がなかったからという風に思っている。階段の踏み面幅は利用者全員が合う訳ではなく、青空保育で山に来る子供達も増えてきているので、子供達も安全に楽しく伸び伸びと歩くのに、なるべく階段を作らない方法で考えてほしい。	「整備箇所は既にボランティアの方に整備をしていただいている箇所も含まれています。幅広い年代の方に利用していただきたいので、最低限の安全管理をするために階段を整備します。また階段の素材には防腐処理をして長持ちする整備を考えています。段数についてはご意見を参照させていただいて、状況に応じて迂回等で対応できる場所もありますので、検討させていただきます」と説明しました。 ⇒利用者の安全面に配慮し最低限の施設整備としました。
2	園路	根の露出により自然に階段状になって登りやすい箇所がある。源氏山は何十年も前から根の階段と丸太階段の両方があり、両方から行き来できるようになっているので、そういう風な子供も遊べる場所も全て階段にしないで残してほしい。	「自然環境の保全の観点と安全面を踏まえて園路を整備することをご理解ください」と説明しました。
3	園路	浄化センター入口の丸太階段が計画されているが、2箇所について段数が表示されていない。	「図面を修正いたします」と説明しました。 ⇒段数を表示しました。(P7参照)
4	園路	階段の高さと、計画されている段数を計算すると、はるかに長い距離になる。階段の段数はどのような根拠か知りたい。	「確かに浄化センター脇の階段を参考にするように申し上げましたが、踏み幅等については現地の状況に合わせて段差も高さも寸法が変わります。階段整備箇所については必要箇所であると認識していますが、段数については精査して実施設計に反映させていただきます」と説明しました。 ⇒既存設置段数の寸法を参考とし必要段数を整備することとしました。
5	園路	ウルシ林から二本橋にかけて、ストック池④の脇の道ウサギ山側沿いに準主動線を設置することになっているが、低地で湿潤なので、お金をかけて道を作るよりは、既存の峯山側の道を拡幅した方が工事費は安いのではないかと。現在通行止めになっているが理由は知っているのか。	「峯山側も検討しましたが、準主動線として幅員90cm確保に当たり、現状の草地に盛土を行う必要があり、山側は一部崖崩れがあるので非常に危険な箇所であると判断しました。また、湿地側への盛土に施設整備費がかかると予想されます。一方で計画案は低地で湿潤のため盛土、土留めが必要ですが、緩い勾配が確保できると考えています。また、崖からの落石に対しても安全な距離に配置しています。通行止め箇所は、倒木と巨石の崩落があったためでした。計画案は崖から離隔を取って園路設定してあります」と説明しました。
6	園路	園路等、検討の段階で判断材料として、費用・安全面の定量的な根拠がないと我々素人は判断できない。	「比較資料は作成してお示しいたします」と説明しました。
7	園路	現在ある仮設階段は全部整備し直してしまうのか。また浄化センター入口のような立派な階段ができるのか。	「原則整備すると図面では表記させていただきましたが、ボランティアの方にご協力いただいてしっかりした園路ができている箇所がございます。一方で施設整備まで期間があるので老朽化等による杭の露出等の危険な箇所は施設整備を行います。保全管理方針の協議の中で、皆様にご協力いただいて整備をしていける状況であれば、一部現状の階段を生かすこと可能性もあります。杭の飛び出ない安全な構造です」と説明しました。
8	雨乞池	雨乞池は霊光寺の池の何倍に整備されるのか。	「雨乞池の湿地の広さは約317㎡で、霊光寺さんの池の約半分程度ではないかと想定しています。池は道路側に整備します。現在湿地であるが、堆積物は除去を行い開放水面は確保できると思っています」と説明しました。
9	池	ストック池最深部が900もあり、子どもには深すぎで600もあれば良いのではないかと。	先日の説明会でも同様のご意見が出ました。300と600の境に乱杭を設けて視覚的に対処します。ヨシやガマ等の生育ができない深さで池としての水面を確保する目的で900と設定しました。お子様が通る付近については柵を設けたり深さの再検討をします。 ⇒水深は30、60cmとしました。園路に隣接する箇所にロープ柵を整備することとしました。
10	池	生き物にとっては10cm以下の水深が一番良いので、段階的に深くして行ってほしい。ヨシは浅い方が生育は良い。	「上流側の湿地については5~10cmの水深が広域に確保できます」と説明しました。
11	池	水を抜く設備があるのか。コイやカメ等のペットが放されたり、ヘドロの堆積で水が汚れると考えられるので、水深が調節できるような排水溝が必要である。メンテナンスができないと大変である。	「30cmまで水深を調整できる堰の構造です。雨水の影響等でヘドロが堆積した場合は堰を開けて60cmの水深に下げ中に入り、ヘドロを除去する作業を考えています」と説明しました。
12	池	先程、水深が深すぎるとの話があったが、場所により深いところも必要である。段階的に深くなり、90cmのところも作ってほしいと思う。	⇒池④については、安全面に配慮し最深60cmとしました。雨乞池については最深90cmとしました。

## ■鎌倉広町緑地実施設計(案)市民説明会での意見とその対応方針【平成24年3月9日腰越行政センターにおいて】

	項目	市民説明会での意見	市民説明会での説明(⇒:対応方針)
13	その他要望等	管理棟を各入口に設置できないことは費用面で難しいことは理解できるが、計画にある管理棟にのみトイレでは数が足りない。また管理等の中からしかトイレは入れないのか。管理棟が閉まっている条件では利用できないのかが知りたい。	「基本的に都市林なので樹林地の保護が目的である一方で都市公園でもある広町緑地は管理事務所のみにトイレを設置します。管理事務所と浄化センターのトイレを利用していただけだと思います。管理事務所のトイレは外から入れる構造ではありませんが、日中は管理人が常駐している予定なので、散策にいらした方に管理事務所の中からトイレをご利用いただけます」と説明しました。
14	その他要望等	来園者に対して広町の自然や市民運動の歴史等を知っていただくために資料や図書コーナー、棚を作してほしい。	「展示スペースは管理事務所の廊下の壁面等を考えています。今後管理運営等を行っていく団体の方々と協議して掲載内容や必要な棚、机等の備品を決めます」と説明しました。
15	その他要望等	管理棟の裏に石垣を積むと書いてあり、高さが1mとなっているが子供が転落する可能性がある。現在はスロープ状なので問題は無い。	「高さは1m内外の土留めとし、30度ののり面なので現状よりすこしきつくなるくらいで、管理事務所の裏からいきなり転落することはないと考えています。管理事務所をぎりぎりまで後退したため通路の確保が出来なくなってしまったことから、スペース確保の目的で土留めを計画しました」と説明しました。
16	その他要望等	避難地への経路として動線整備の要請があれば整備を検討するとあるが、総合防災課から景観部への要請なのか、七里ガ浜地区の住民から総合防災課経由もしくは景観部へ直接の要請なのか知りたい。	「ご意見の箇所はC区分なので動線の整備は厳しいですが、行政内部での要請があれば検討していきます」と説明しました。
17	その他要望等	現状維持をしながら必要最低限の整備をしていくことは大賛成。津波による浸水予測によると由比ガ浜で14.4mと予測がされている。腰越地域にも相当の津波が押し寄せると予想されるが、今回の整備にあたって防災の面も頭に入れて検討されたのか知りたい。広町の標高で一番高い場所は30m以上あるので、いざというときに避難ができれば良い。	「新たな動線の整備は行いません。避難路としての活用する可能性のある箇所については緊急時に緑地内に退避することを妨げるものではありません。また、そうした箇所についてはロープ柵で対応することを考えております」と説明しました。
18	その他要望等	鎌倉市から出た土砂災害ハザードマップによると広町の周囲は弱い山らしい。室ヶ谷のモンタナ幼稚園では津波の際の避難路を裏山に検討したが、山が崩れやすいので断念した話がある。	「確かに広町の外周部は急傾斜で落石の恐れがある場所は認識しています。p.29に保護施設を設置すると示してあります。今後の施設整備まで危険が増すと見受けられれば状況により検討します」と説明しました。 ⇒施設整備までの間に緑地の現状等が著しく変更した場合は、実施設計において策定した内容の再検討を行います。
19	その他要望等	山火事の発生は注意しなくてはならないので、禁煙の看板を設置してほしい。入口だけでなく山の中でも。	「利用方法の掲示内容、箇所については今後の保全管理方針を決めていく中で決定していきます。必要箇所にサインを設置することになるかもしれませんが、総合案内板に明記することになるかもしれません」と説明しました。 ⇒掲示内容、箇所については今後の維持管理方針等を検討する中で決定することとしました。
20	その他要望等	土留めの石について間知石のような石だと景観上の問題や植物が入りにくいこともあるので、構造は配慮していただきたい。	「間知石のような二次製品は使いません。いわゆる雑割を使用し、隙間から植物が入る構造にします。鎌倉中央公園で使用しているようなコンクリートを使わない構造もありますので、再度検討していきます」と説明しました。 ⇒護岸、御所谷入口部の土留め(石積み)及び護岸石積についてはコンクリートを用いない工法としました。
21	その他要望等	自然景観の保全とうたっておきながら構造物を作るのは理解できない。景観を守るというのなら人工物をいれないことだと考えます。土手が弱いから石を積む、人が歩きやすいように整備することも納得できるが、現状を変えてまで整備するのが納得できない。外周にフェンス等を設置したなら景観は一変すると思う。	「あくまで都市公園での位置づけの中で基本構想から基本設計にいたるまで市民の皆様と合意を得ながら決めてきました。その中に実施設計(案)にあるような動線を計画しています」と説明しました。 ⇒施設整備については、利用者の安全面に配慮し、維持管理・保全活動に必要な最小限の整備としました。
22	その他要望等	ホタルやカエルの希少な生息地であり、生物調査やどれほどインパクトを与えるか検討しているのか。そうした生物にとっては土手が重要であると認識しています。	「ボランティアの方々の活動でホタルの保護や生息地の整備、メンテナンスをされているお陰で個体数も増えてきています。昔からアカガエル、モリアオガエルも生息している」と説明しました。 ⇒護岸については浸食の恐れがある箇所について自然石を用いた石積みとし、その他については現状のままとしました。